

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：澤村・小塚]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成26年度病害虫発生予察情報 注意報第2号

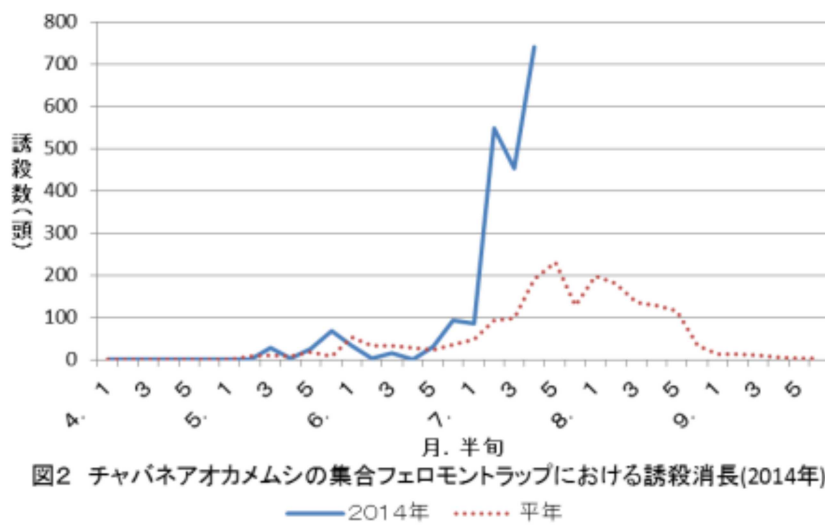
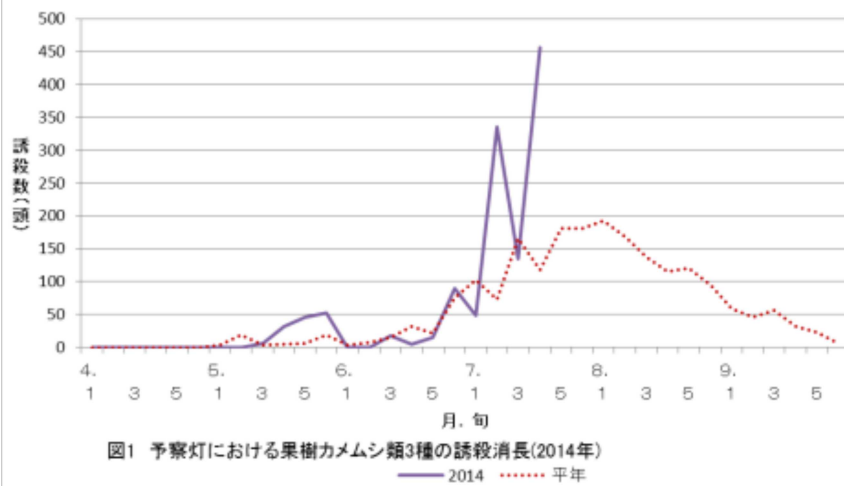
平成26年7月24日

島 根 県

果樹を加害するカメムシ類の発生量が多く、カキ、ナシ、スモモなどで被害が多発生する恐れがありますので注意報を発表します。現地では発生状況の把握に努めるとともに、発生園では適切な防除対策を講ずるよう指導をお願いします。

記

1. 病害虫名 果樹カメムシ類
2. 発生地域 県内カキ、ナシ、スモモ栽培地帯
3. 発生時期 7月下旬～
4. 発生量 やや多い
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 予察灯（出雲市）でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数は平年に比べ多く推移している。7月第4半旬までの予察灯での3種カメムシ類の累積誘殺数は1240頭（平年値840頭）とやや多く誘殺された（第1図）。
 - 2) チャバネアオカメムシの集合フェロモン（出雲市）における誘殺数は7月第2半旬から4半旬にかけて増加し、1718頭（平年値380.5頭）と増加し、今後も果樹カメムシ類の飛来、加害が活発化すると考えられる（第2図）。
 - 3) 7月中旬の巡回調査ではカキでの被害果率は0.4%（平年値0.4%）と平年並みであるが、今後カキや無袋栽培のナシなどで被害が発生する恐れがある。なお、有袋栽培のナシでも果実の肥大にともない果実袋を通して加害される恐れがある。
 - 4) 本年はスギ・ヒノキの花粉の飛散が平年に比べ少なく、毬果は少ないと予想され果樹園への飛来が平年に比べ早くなると予想される。
 - 5) カキ、ナシ（無袋）の摘果作業はほぼ終わっている。
6. 防除対策および防除上の注意事項
 - 1) 山間地や山沿いの園ではカメムシ類の発生加害が多いので特に注意する。
 - 2) カメムシはスギ・ヒノキの毬果で増殖し、果樹園に移動するので付近のスギ・ヒノキについても観察する。
 - 3) 薬剤の使用にあたっては、農薬使用基準ならびに本県農作物病害虫雑草防除指針を遵守する。



7. 薬剤による防除

1) 種類および濃度使用基準 (平成26年 7月24日現在)

薬 剤 名	カ キ		ナ シ	
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	3日前/3回	2,000倍	前日/3回
アグロスリン水和剤	1,000~2,000倍	前日/3回	1,000~2,000倍	前日/3回
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000~10,000倍	7日前/3回	5,000~10,000倍	3日前/2回
アディオオン乳剤	2,000~3,000倍	7日前/5回	2,000倍	前日/2回
ジノテフラン水溶剤(顆粒)	2,000倍	前日/3回	2,000倍	前日/3回
スカウトフロアブル	1,500倍	7日前/5回	1,500倍	前日/5回
スミチオン水和剤40	800~1,000倍	45日前/3回	800~1000倍 (有袋) 14日前/3回 (無袋) 21日前/2回	
ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	7日前/3回	2,000~4,000倍	前日/3回
テルスター水和剤	1,000~2,000倍	14日前/2回	1,000~2,000倍	前日/2回
MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	14日前/2回	2,000倍	14日前/2回

薬 剤 名	スモモ
ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍 3日前/3回
ジノテフラン水溶剤(顆粒)	2,000倍 前日/3回

2) 散布時期および回数

発生に応じて数回散布する。

3) 散布量 : 10 a 当たり 液剤300~400㍓